

Centered Gothic 18 pt. **かっこいいレポートを作ろう** (改行)

(改行)

▼ 左揃えルーラ Mincho 12 pt. ▼

名 前 : 西条みやこ (改行)

学生番号 : 12345678 (改行)

(改行)

序論 (改行)

▲ インデント (段落) Mincho 12 pt. 本文 ▼

糸魚川-静岡構造線活断層系は、小谷から松本、岡谷、小淵沢を経て山梨県
鰍沢にいたる総延長約 150km の活断層で、日本の内陸活断層の中でも最も活
動度が高い。なかでも松本市南東部をはしる牛伏寺断層では千年あたり 10 m
近い平均の運動速度が知られていた。この運動は常時少しずつ起こるわけでは
なく、500 ~ 800 年ごとの地震のたびに突然数メートルの食い違いが生じるこ
との繰り返しとみられる。(改行)

中略 (改行)

▲ インデント (段落) Mincho 10 pt. 文章の引用など ▼

1996 年の政府発表以後、実施された調査は、この危険度を確認し、
岡谷~小淵沢区間の活動性が従来の推定よりも高いことを示している。
1996 年松本市中山で行われたトレンチ調査では、過去 3 回の地震が
1990 年並柳トレンチの結果と同じ時期に、より小さな年代誤差で見い
だされた。また、諏訪湖の湖底の泥の層から、湖畔での断層運動による
水深変化を検出する調査では、約 1000 年前から 8000 年前の間に平均
1300 年あまりの間隔で 7 回の地震が繰り返されたことが明らかとなっ
た。この結果は、従来の 3000 ~ 5000 年という地震再来間隔を見直す契
機となった。(改行)

結論 (改行)

緊急事態管理を主眼とした防災とは別に、予測された危機を冷静にとらえて、
社会や個人が継続的に災害軽減の努力を積み上げるための計画が検討されるべ
きではないだろうか。(改行)

▲ ハンギングインデント Mincho 10 pt. 文献リストな ▼

奥村晃史・下川浩一・山崎晴雄・佃 栄吉, 1994, 糸魚川-静岡構造線活断層系の最近
の断層活動-牛伏寺断層・松本市並柳地区トレンチ発掘調査一。地震第 2 輯, 46,
425-438. (改行)

奥村晃史・佃 栄吉, 1995, 1988 年糸魚川-静岡構造線活断層系牛伏寺断層(松本市並柳
地区)トレンチ調査。活断層研究, 13, 54-59. (改行)

奥村晃史・井村隆介・今泉俊文・澤 祥・東郷正美・水野清秀・苅谷愛彦・斉藤英二,
1998a, 糸魚川-静岡構造線活断層系北部の最近の断層活動。地震第二輯, 50, 別冊,
35-51. (改行)

Appendix: T: tab だけで表を作る tl: left flush, td: decimal, tr: right flush

T	1.T	Hogehoge faultT	150T	12.5T	7.3T	DexteralT	Pokopoko (1993)
T	2.T	Parapara faultT	27T	2.6T	0.08T	SinistralT	Pekopeko (1974)
	tl	tl	td	td	td	tl	tr